

# 平成28年度 校内研修報告書

学校名 藤岡市立小野中学校

住 所 藤岡市立石407番地

校長名 長谷川 弘幸

## I 研修主題

学びをもとに協働しながら、高め合い、目的を達成しようとする生徒の育成  
－9年間のつながりを生かす授業スタンダードを意識した授業改善を通して－

## II 研究の概要

### 1 主題設定の理由

小野小・中学校は、平成26年度より群馬県から「小中連携実践推進校」、西部教育事務所から「小中連携推進事業」のそれぞれの指定を受け、藤岡市内、群馬県内の小中一貫校の先駆けとしての役割を担い、目指す学校像として「9年間の学びを大切にす学校」を掲げ、「夢に向かってかがやく子の育成」に努めている。連携型小中一貫校としての初年度は、「目指す児童生徒像」を共有することから着手し、「夢に向かってかがやく子の育成」に向け、小中学校教員の交流による指導力の向上や乗り入れ授業、9年間のつながりを意識した指導による学力向上に取り組んだ。特に、理科においては、小・中学校9年間の系統や指導のポイントを明確にし授業スタンダードの共通実践を目指して、小・中学校の教員がチームを組んで先行研修を行い成果を上げた。

昨年度は、「学びをもとに協働しながら、高め合い、目的を達成しようとする生徒の育成－9年間のつながりを生かす授業スタンダードを意識した授業改善を通して－」という研修主題を設定し、各教科における目指す児童生徒像をより具体的にした上で授業実践を行った。そして、より系統を生かした指導ができるように、9年間のつながりを意識した「系統一覧表」や「指導の系統」の作成と、全ての授業において意識して取り組む授業の型である「授業スタンダード」を確立した。

本年度は昨年度までの取組を踏まえ、「系統一覧表」や「指導の系統」を活用するとともに、「授業スタンダード」を意識した授業実践を積極的に行い、更なる授業改善を図ることで、主体的に学習に取り組み、目的を達成すべく仲間と協働する中で思考力を伸ばす児童生徒を育てたいと考え、本主題を設定した。

### 2 研究のねらい

9年間のつながりを意識した「系統一覧表」や「指導の系統」を活用するとともに、「授業スタンダード」を意識した授業実践や授業改善を行うことを通して、学びをもとに協働しながら、高め合い、目的を達成しようとする生徒を育てる。

### 3 研究の内容と方法

#### (1) 研究内容

##### ○9年間のつながりを生かした授業づくり

- ・教科ごとに作成した「系統一覧表」等を活用し、その授業が小学校も含む過去のどの単元とつながっているか、また、これら先のどの単元とどのようにつながっているかを意識して授業づくりを行う。さらに、生徒の実態を踏まえた課題を明確にし、重点的に指導する単元等

を「系統一覧表」の中に位置付けるなどして、次年度以降の実践に生かしていく。

- ・「指導の系統」の中に、単元ごとに重点とする言語活動を位置付け、つながりのある指導により、思考力等の育成を図る。

#### ○授業スタンダードを意識した授業展開

- ・各教科の特性を考慮した、「授業スタンダード」の日常的な実践を進めるとともに、特に「振り返り」により完結する授業の実践を重点として取り組む。
- ・各教科の特性を生かした言語活動の充実を図る。(場の設定、課題・発問及び支援・評価の工夫等)

## (2)研究方法

- 小中合同教科部会において、指導案や系統一覧表等の検討を行い、9年間のつながりを生かした授業づくりを行う。
- 小・中学校それぞれ授業公開を行い、9年間のつながりや「授業スタンダード」の視点から授業実践・検証を行う。
- 「9年間のつながりを生かす授業づくりアイデア集」を作成することで、小・中学校における実践内容の進化・共有化を図る。

## 4 研究の経過

- 4/ 3 本校の取組についての共通理解、教科部会における指導の重点の確認 等
- 4/26 昨年度までの実践と今後に向けて
- 5/23 合同研修① 目指す授業像の共通理解 教科部会
- 6/ 6 授業スタンダードの共通理解 モデル授業実施
  - ・1年 理科「葉のつくりとはたらき」櫻井大起教諭
  - ・2年 国語「ごんぎつね」有門克敏教諭
  - ・3年 数学「素因数分解」清水克也教諭
- 6/27 小野小計画訪問 教科部会ごとに授業参観
- 8/19 合同研修② 講義 「つながりを生かす授業づくり」 (市教委 野中友華指導主事)  
教科部会 小野中学校計画訪問に向けた授業構想シート検討
- 9/28 小野中計画訪問 教科部会ごとに授業参観
- 10/ 6 合同研修③ 小野小学校公開授業に向けた指導案検討
- 10/20 合同研修④ 小野中学校授業公開 授業検討会
  - ・2年 国語「随筆の味わい―枕草子・徒然草―」有門 克敏教諭
  - ・1年 数学「方程式」深井寿和教諭
  - ・2年 社会「明治維新」落合清貴教諭
  - ・1年 理科「物質のすがた」櫻井大起教諭
  - ・2年 英語「“A Work Experience Program”」山田章恵教諭
- 11/ 7 合同研修⑤ 小野小学校公開授業に向けた指導案検討 秋田公開授業視察の報告
- 11/14 合同研修⑥ 小野小学校授業公開 授業検討会
- 1/23 年間指導計画 系統一覧表の朱入れ 授業づくりアイデア集の仕上げ
- 2/ 8 合同研修⑦ 1年のまとめ 教科部会 指導の振り返り 次年度の課題検討
- 2/20 CRT分析 次年度の授業づくり検討
- 3/24 市内16小中学校に「9年間のつながりを生かす授業づくりアイデア集」配布

## 5 主な実践

○ 9年間のつながりを生かした授業づくり

・平成28年10月20日(水曜日) 国語 指導者 有門 克俊

題材名 「随筆の味わい—枕草子・徒然草—」

「あはれ」と「をかし」の言葉の違いに着目して、対象によって細やかに使い分けていることを理解させ、筆者の繊細な感覚を読み取らせた。小学校では古語の読み方に重きを置いた学習であったが、中学校では「あわれ」と「おかし」の言葉の違いを考えることにより、深い読み取りを行えるようにした。

・平成28年10月20日(水曜日) 英語 指導者 山田 章恵

題材名 「“A Work Experience Program”」

職場体験学習で経験したことや考えたこと、将来の夢について、英語でインタビューし合う活動を行った。将来就きたい職業について、小学校では“I want to be ~.”を使って伝え合いをしたが、中学校ではさらに、その理由や、夢の実現に向けてしなければならないことを付け加えることができた。

○ 「9年間のつながりを生かす授業づくりアイデア集」の作成

授業スタンダードを踏まえた、「9年間のつながりを生かす授業づくりアイデア集」を作成した。小野小・中学校の教科部会を中心に意見交換を重ね、日々のちょっとした工夫で実践できる「学びのつながりを生かす授業アイデア」を提案することができた。市内の16小中学校にも配布し、実践内容の共有化を図っていき

たい。



## III 研究実践の成果と課題

○ 指導案・系統一覧表等の作成に際し、小中の教員が話し合い、学びのつながりを意識した授業づくりを協働で進めたことにより、教師の教材研究が深まった。また、モデル授業や公開授業を行い授業検討をすることで、より質の高い「学びのつながりを生かす授業」のあり方を考えるとともに、生徒自身が以前よりも学びのつながりを意識できるようになった。

○ 全教職員が、4つのステップからなる「授業スタンダード」を意識した授業実践を日常的に行うことで、授業の質が向上するとともに、本時のめあてや話合いの充実に対する生徒の意識を向上させることが出来た。

○ 「9年間のつながりを生かす授業づくりアイデア集」を作成し、市内の16小中学校に実践内容の成果を発信することができた。

○ 今後はより主体的、対話的な協働学習を目指し、授業スタンダードのステップ2「課題をじっくり」の学習活動を充実させることで、思考力・表現力・判断力の育成を図っていく。

○ 「系統一覧表」や「指導の系統」が、より活用しやすいものになるように検討作業を行い、加筆・修正を加えていく。

○ 来年度以降も「9年間のつながりを生かす授業スタンダードを意識した授業」を、全教職員が行えるように、モデル授業を行うなど共有化を図っていく。

#### IV CRT学力テストの結果分析及び次年度の学力向上対策の方向性

1学年	成果	課題	来年度の授業づくりに向けて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書くことに対する抵抗が減り、構成を考えることができるようになった。</li> <li>文章の構成や展開をもとに、筆者の主張や読み取る力がついてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三段構成などの決まった形式で文章を書くことはできるが、自分なりの工夫を主体的に行うことはあまりできない。物語文を読み取る上で、登場人物の心情や様子を叙述から読み取ることに苦手意識を持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアやグループでの交流活動をし、互いの考えや思いを高め合えるような授業を目指していきたい。また、生徒が目的意識と達成感を感じられる授業づくりをしていきたい。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率を11ポイント上回った。(基礎は11.2、応用9.6ポイント)</li> <li>問題の内容別に見ると「一次方程式」が13.6ポイント、「平面図形」が13.3ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「比例の関係になるものを、いろいろな事象の中から選ぶことができる」が全国平均を6ポイント下回っている。</li> <li>「与えられた文章題に対して適切な方程式を立式する」問題の無解答が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算コンテストなどをきっかけとして継続して計算力をつけさせていきたい。</li> <li>「一次関数」の指導の際に、学び合い活動を通して根拠を説明させるなどの指導により、理解を深めさせる。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の正答率と比較し、「基礎」で+12.3、「活用」で+13.4上回ることができた。</li> <li>観点別では、「関心・意欲・態度」+14.7、「思考・表現」+11.6、「観察・実験の技能」+14.2、「知識・理解」+11.5ポイントと好成績であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考察をより充実させるために、実験の精度(条件をできるだけ同じにする)を高め、数値をきちんと記録させてから考察させる。</li> <li>水素と酸素などの気体の違いを演示実験など全体で振り返る場面をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをまとめる際、根拠となる既習事項や生活体験を想起させていく。</li> <li>振り返りでは、難易度別の練習問題を用意し、知識の定着を図っていく。</li> <li>体験コーナーを設け、理科の面白さを伝える。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均と比較し、教科全体では約5ポイント、「基礎」、「活用」共に約12ポイント上回った。</li> <li>観点別でも各観点とも約10ポイント以上上回り、自分の考えを表現させる活動や単元テストを実施してきた成果の表れと言える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域別で見ると地理分野の「世界の地域構成」のプラスポイントがやや低めである。</li> <li>小問題で見ると「平安京」を地図上の位置と関連付けて理解する問題、「古代の文化」を文化財と関連付けて理解する問題の正答率が低くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の社会的事象や資料を比較・関連させ、自分のことばで表現する活動を積極的に取り入れていく。</li> <li>歴史分野の授業でも地図帳を活用するなど、横断的に力を伸ばす意識を高めていく。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を注意深く聞く力を養ったことで、「リスニング」では目標値よりも4.7pt高く正答していた。</li> <li>授業内で定期的な単語テストを行い、年間を通して生徒たちは単語の正確な書き取り練習を行っているため、「語彙の知識・理解」で目標値を9.5pt上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「単語の並べかえによる英作文」や「場面に応じて書く英作文」では、目標値より高く正答していたものの、それぞれ62.5pt、52.6ptと正答率が低かった。今後の授業では、知っている知識を結び合わせて英語での表現力が高められるように、ワークシート等を工夫していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「楽しく学べる」授業の要素はそのままに、単元、学期、年度の最後を見据えて、生徒たちが英語を使って意思疎通ができるようにしたい。</li> <li>2年次では自己表現活動としてもの人や人を紹介するまとまりのある文章を書く練習を行う。</li> </ul>
学年のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科とも全国平均と比較し10ポイント程度上回っており、グループでの話し合い活動や朝学習での成果が表れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語の物語の登場人物の心情の読み取りがやや苦手な様子が見られた。英語では英作文の表現に課題がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアやグループでの交流活動を通して、お互いの考えや思いを高め合えるような授業を行うようにする。また、ノート指導などを充実させ、書いて表現することの指導の徹底をはかる。読書活動を積極的に行うようにさせる。</li> </ul>
2学年	成果	課題	来年度の授業づくりに向けて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成を考えて説明的な文章を書くことができるようになった。</li> <li>説明的文章を読み取る上で、要旨を把握して、文章全体の構成を考える力がついてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一文一義が守れずに文章が長くなってしまふことがある。、主述のねじれをなくしていく意識が大切になってくる。</li> <li>要旨と付属的な内容、事実と例示、筆者の考えなどを文末表現から見分けることなどがもう一歩である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「対象である文章や映像に触れ」②「疑問や課題を見つけることができる」③「その課題を解決する手段を話し合い」④「調べたことを取捨選択して、必要な内容を文章にまとめ」⑤「目的に合わせた文章や音声等で発信できる」といった授業実践を展開していきたい。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点別にみると「数量や図形の知識・理解」は全国平均と同じであった。</li> <li>問題の内容では「式の計算」が全国を2.3ポイント、「図形の性質」が全国を2.6ポイント上回った。</li> <li>特に「合同な図形についての理解」は全国を5.4ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点別にみると「数学的な見方・考え方」、「関心・意欲」が全国平均を3ポイント近く下回った。</li> <li>問題の内容では、「証明」が全国平均を6.6ポイント下回った。特に「問題文から2元1次方程式を作る問題」で全国を10ポイント、「証明」で全国を10ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に数学に対する能力は低く、自ら地道に努力して定着させる姿勢にやや欠ける面が見られる。豆テストや単元テストを強化して、定着させる習慣を身に付けさせること。</li> <li>じっくり考えて答えを求めようとする問題を意図的に扱い、慎重に推敲する姿勢を高める。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の正答率と比較し、「基礎」で6.1ポイント、「活用」で2.9ポイント、「教科全体」では5.4ポイント上回ることができた。領域別では、「生命」は+14.1と好成績であったが、「粒子」は-0.8、「エネルギー」は-1.9と振るわなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>割合、小数、分数の計算を丁寧に教えてきたが、定着が不十分であった。</li> <li>「実験・観察の技能」では、ガスバーナーの使い方を理解できていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『コンピュータを使った四択クイズ』、知識・理解の一層の定着を図っていくとともに、全国の入試問題を補充していく。</li> <li>記述問題ができるようにし、活用力をさらに向上させる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均と比較して、教科全体では3.5ポイント、「活用」では8.8ポイント上回った。</li> <li>観点別では「社会的な思考・判断・表現」で、全国平均を13.7ポイント上回った。話し合い活動や、自分の言葉でまとめる活動を継続的に進めている成果と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日本の諸地域」が全国平均を0.4ポイント下回った。</li> <li>「日本の気候区分についての理解のもとに、気温図」を読み取る問題や「株仲間」について理解する問題など、知識・理解に関わる問題の正答率がやや低くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い活動や自分の言葉でまとめる学習活動を継続的に進め、社会的な思考・判断・表現力の向上を図る。</li> <li>授業の始めに復習タイムを設定するなどし、基礎的な知識の定着を図っていく。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>即興的な対話練習を継続して行ったことにより、要点を聞き取ったり、適切に応答したりする力が身に付いた。</li> <li>基本文を習熟させた後、まとまった量の文章で自己表現する英作文力が身に付いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本文の疑問文や否定文、重要語句の繰り返しの練習の不足から、文のしくみや語句の正しいつづりの定着が不十分になっているところがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>即興的な対話練習を継続し、さらにコミュニケーション力を付けさせたい。</li> <li>まとまった量の文章を書く機会を継続し、さらに語数を増やしたり内容を深めさせたりして、自己表現力が高めさせたい。</li> </ul>
学年のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科とも全国平均と比較して、大きなポイント差は目立たないものの、細かい数値の読み違い、文章読解における勘違いなど、注意力不足が露呈されている。グループでの話し合い活動やプレゼンテーションなどは、日常の成果が表れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「証明」が全国平均を6.6ポイント下回ったことから、論理的な思考を組み立てていくことが、苦手である。つまり、文章に触れていないことが明白である。先が予測できなかったり、筋道だてて考えを奨めたりすることが苦手である。文章題や応用が苦手ということが推察される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本を徹底した上で、ドリル形式の問題を解かせる。また、ペアやグループでの交流活動を通して、お互いの考えを深め広げたい。また、読書活動や新聞の切抜きによる全文書き取りを積極的に進めようとして、一般常識や社会的な見識を広げさせたい。</li> </ul>

## ステップ1. めあてをはっきり

### ■ 「ここでの学び」のねらいの明確化

例: これまで

ここでは

これから

#### 小6年・社会

明治政府による富国強兵の国づくり

#### 中2年・社会(歴史)

明治政府による改革が人々に与えた影響

#### 中2・3年・社会(歴史・公民)

法律や政策についての公正な評価

### ■ 「これまでの学び」の振り返り

例: 子どもが説明する

下学年の教科書やノートを見る

下学年の教材や実験などを見る



### ■ 「これまでの学び」をもとにした問いの設定

例: 過去の学習課題との相違点を明らかにする

既習内容や生活経験との矛盾やズレを感じさせる

既習内容を掘り下げ、疑問を持たせる

### ■ 子どもの実態に即しためあてづくり

小中の指導要領・教科書の分析



レディネステストの分析



子どもの実態に即しためあて

## ステップ2. 課題をじっくり

### ■ 活用できる「これまでの学び」の準備

例: 前時までのノートやワークシート

これまでの学びをまとめた冊子・カード

既習内容のポイントを示した掲示物

指導の系統を活かしたプリント

問題解決のために必要な既習内容を示したヒントカード

### ■ 「これまでの学び」を活用した問題解決

例: 中1年・数学  
小学校で学んだ比例のグラフを、変数を負の数にひろげて考える

中1年・理科  
小学校で学んだ根・茎・葉に水の通り道があることを基に、維管束について観察・考察する

### ■ 発達段階に応じた話し合い活動

低学年  
教師と一緒に話し合い活動を体験する。

中学年  
教師の助言を受けながら、話し合い活動のルールとめあてに沿って話し合う。

高学年  
児童を中心に、話し合いにふさわしい議題を選び、話し合いで解決する。

中学生  
学級や学校の問題に気づき、より有意義な学校生活を送れるように提案するとともに、生徒が主体となって自治的な話し合いを進め、集団決定する。

## ステップ3. まとめをしっかりと

### ■ 「これからの学び」を意識したまとめ

例

小1年 図工  
色づくりを通して

つながり

中1年 美術  
色相環

小4年 理科  
とじこめた空気

つながり

中2年 理科  
物質の成り立ち 原子・分子

### ■ 自分の言葉による「ここでの学び」のまとめ

例

小6年 算数  
小数や分数、整数が混じった計算のしかた  
について自分の言葉で表現

中3年 数学  
素因数分解の活用のしかたについて  
自分の言葉で表現

## ステップ4. 振り返りをみっちり

### ■ 「ここでの学び」と「これまでの学び」との比較

例

中2年 国語  
「ごんぎつね」を学んだ感想

比較

小4年 国語  
「ごんぎつね」を学んだ感想

### ■ 「ここでの学び」による自己の変容の考察

例

学習課題に対する予想

比較

課題追究後の自分の考え

### ■ 「ここでの学び」の生かし方の考察

例

小5年 国語  
より良いインタビューの仕方について学んだ  
ことを、日常生活のどの場面で使いたいか  
考える

中 理科  
この時間で学んだ原理やしくみが、日常生  
活のどの場面で使われているかを知る

### ■ 「ここでの学び」の自己評価

A・B・Cで評価し、新しく学んだことや広が  
ったところ、深まったところを中心に書く

単元ごとの自己評価集に本時の学びを振り  
返る

### ■ 「ここでの学び」を生かした類似問題への取組

補充問題(教科書・ワーク)

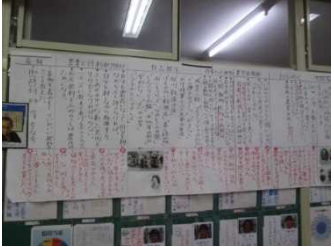



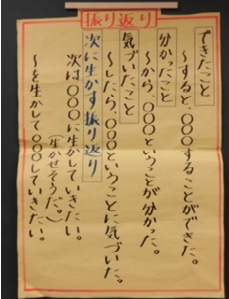
小プリント・小テスト

達成感



# 国語科 (小学6年)

- 1 単元名** 文章を比べて読み、作品の特徴や作者の思いをとらえよう  
教材名「やまなし」(光村図書6年) <資料>イーハトーヴの夢
- 2 本時のねらい** なぜ題名を「やまなし」にしたのか考えることを通して、宮沢賢治が「やまなし」で伝えたかったことをとらえ、表現することができる。
- 3 展開**

	児童	教師
<b>めあてをはっきり</b>	1「五月」と「十二月」の場面を思い起こす。 2「かわせみ」と「やまなし」が何を表しているか考える。 3本時の課題をつかむ。「宮沢賢治は、なぜ題名を「やまなし」にしたのだろうか。」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <b>「ここでの学び」のねらいの明確化</b> </div>	○既習事項の掲示物を使って、「五月」と「十二月」の谷川の様子、かにの様子、出来事などの対比について思い起こさせる。 ○「五月」と「十二月」の中で、かにの兄弟にもたらしたもの(与えたもの)で異なるものは何かとらえさせ、かにの兄弟は「かわせみ」と「やまなし」から何を感じ取ったのか考えさせる。 ○上記のことをふまえた上で、本時の課題をつかませる。 
<b>課題をじっくり</b>	4宮沢賢治はなぜ題名を「やまなし」にしたのか考える。 <自分の考えをもつ> <グループで考える>  <全体で交流する> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <b>活用できる「これまでの学び」の準備</b> </div> ○「作者・宮沢賢治の生き方、考え方」から、「五月と十二月の比較」から、「やまなし」からという三つの視点を与え、考えさせる。 ・「やまなし」が象徴するものは何か思い起こさせる。 ・「かわせみ」と「やまなし」は対比の関係にあるのに、なぜ「かわせみとやまなし」にしなかったのか、また、別の題名「かわせみ」「かにの兄弟」等となった場合の印象を考えさせる。 ・「イーハトーヴの夢」を思い出させ、宮沢賢治が理想としているのはどのような世界か考えさせる。 ○「学びのつながりブック」を参考にしながら、これまでに学習した物語文に付けられた題名に対する作者の思いや考えを思い起こさせる。 ○自分の考えをワークシートに記入した後に、グループになり交流する。出た考えのポイントとなる言葉をボードに書き表しておく。 ○ボードを掲示し、全体で交流する。  
<b>まとめ</b>	5本時の学習をふまえて、「宮沢賢治が作品を通して伝えたかったこと」を考え、リーフレットに書き表す。 6このあとは、本単元で学習してきたことを生かして、リーフレットの「学習を終えて感じたこと・考えたこと」の項目を書き仕上げ、友達と交流することを知り、学習の見通しをもつ。	○これまでに書き留めてきたリーフレット「作品から届くメッセージ」の続きを書かせる。 ○「学びのつながりブック」の「言葉の宝箱」の言葉で、自分の表現に生かせるものがあったら使用するよう促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <b>自分の言葉による「ここでの学び」のまとめ</b> </div>
<b>振り返り</b>	7本時の学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <b>「ここでの学び」の自己評価</b> </div>	○「できたこと」「分かったこと」「気付いたこと」「次の学習に生かしたいこと」などを考えさせ、本時の学習を振り返る。 

# 国語科 (中学1年)

## 1 単元名

古典と出会う ～物語のはじまり 『竹取物語』～

## 2 本時のねらい

かぐや姫の昇天の場面について、登場人物や作品についての意見を伝え合いながら、これまで読んできた『かぐや姫』と対比し、自分の考えを深める。

## 3 展開

	生徒	教師
<p><b>めあてをはっきり</b></p>	<p>○本時のめあてをつかむ。 「『かぐや姫』と『竹取物語』を、比べよう。」</p> 	<p><b>「これまでの学び」を振り返る</b></p> <p>これまで読んだり、学習したりしてきた『かぐや姫』と『竹取物語』と対比して、このお話の内容、登場人物、作者、表現の工夫、疑問について、解ったことや考えたこと、感じたことを発表しよう。</p> <p>※物語を対比する観点を再度整理する。 登場人物 時代背景 相手意識 場面毎の読み取り</p>
<p><b>課題をじっくり</b></p>	<p>&lt;自分の考えをもつ&gt; ↓ &lt;小グループで考える&gt;</p>  <p>2015/09/28</p> <p>&lt;全体交流&gt;</p> 	<p><b>活用できる「これまでの学び」の準備</b></p> <p>※既習事項のポイントを示した掲示物</p> <p>○絵本の「かぐやひめ」と、教科書の「竹取物語」を対比し、場面毎にまとめることによって作者の意図や感じ方を理解しやすいようにする。</p> <p>○話を合いを通して、考えの相違点を確認し互いの意見を尊重する。</p>   <p>○絵本と原文の対比をもとにした交流を通して読み取りを深め、物語の相違点やそのおもしろさをより感じられるようにする。</p> <p>○作者の伝えたいことや伝えたい相手によって内容や書きぶりが変わる。</p> <p><b>「ここでの学び」と「これまでの学び」との比較</b></p>
<p><b>まとめ</b></p>	<p>○まとめ 対比を通して分かったことをまとめる。</p>	<p>○作者の伝えたいことや伝えたい相手によって内容や書きぶりが変わる。</p>
<p><b>振り返り</b></p>	<p>○振り返り 物語の読み取りに対して、絵本と原文の対比を通して相手意識の違いが分かった。</p>	<p><b>「ここでの学び」と「これまでの学び」との比較</b></p>



# 国語科 (中学2年)



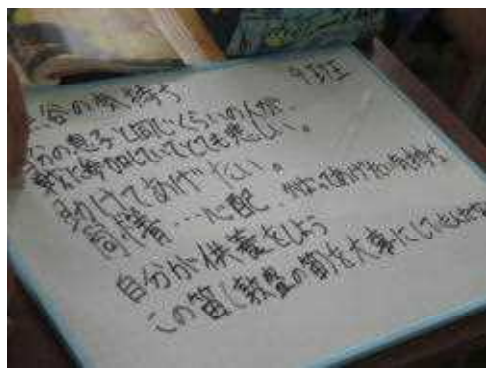
## 1 単元名

古典を味わう 『平家物語』 ～敦盛の最期～

## 2 本時のねらい

熊谷次郎直実が、自分の息子である小次郎と同じくらいの年齢である敦盛の首を一旦捕ることをためらったにもかかわらず、なぜ首を捕ったのか考え、お互いの考えを比較して深める。

## 3 展開

	生徒	教師
めあてをはっきり	<p>司会進行が授業を進める。 ○本時のめあてをつかむ。 『平家物語』の『敦盛の最期』を2の場面を読み、熊谷次郎直実の気持ちを読み取る。 美術部にお問い合わせの一の谷のつい立</p> <p>ものそのもので候はねども、 武蔵の国の住人熊谷次郎直実！！</p> 	<p><b>「ここでの学び」のねらいの明確化</b></p> <p>平敦盛と熊谷次郎直実の台詞のやり取りを確認し、その心情を読み取る。</p> <p>※物語を対比する観点を再度整理する。 登場人物 台詞の数と長さ お互いの立場の確認 時代背景 相手意識 場面毎の読み取り</p> <p><b>活用できる「これまでの学び」の準備</b></p>
課題をじっくり	<p><b>汝はたそ？</b></p> <p>ある小次郎と同じくらいの年齢で、一旦首を捕ることをためらった熊谷次郎直実の置かれた状況を確認する。</p> <p>&lt;自分の考えをもつ&gt; ・見方の軍が押し寄せてきたから仕方なかった。 ・自分で、首を取ることが礼儀だから。 ・武士だから仕方ない。</p> 	<p><b>なぜ、父親の立場になってしまった熊谷なのに、首をはねたのか？</b></p> <p>○熊谷の台詞の口語訳を確認する。</p> <p>○話を合いを通して、考えの相違点を確認し互いの意見を尊重する。</p> <p>○この意見を予想した上で、「武士」とは、どのような人たちなのかをまとめさせ、熊谷の気持ちに対する考えを葛藤と誇り、悲しみと人間らしさなどの視点から、自分のリーフレットにまとめさせる。</p> 
まとめ	<p>○まとめ 対比を通して分かったことをまとめ</p>	<p>○お互いが、リーフレットにまとめた内容（武士という立場、人間という立場の間で揺れていること）を読み比べる。</p>
振り返り	<p>○学習してきた登場人物の心情を振り返り、心情を踏まえた上で、全員で群読をし、平家物語の無常観を確認する。 ○古典の小説の面白さを味わえる。現代の親の感覚となんら変わりがなく、子を思う親の気持ちは普遍であることを考える。</p>	<p>○最初の群読と最期の群読に、はっきりとした感情変化が表れるように意識させながら、全員で群読させる。</p> <p><b>「ここでの学び」と「これまでの学び」</b></p>

教科部会名 (国語部会)

成 果	はっきりとした「めあて」、「学びのつながりブック」を使って、これまでの学習を想起させ、めあてに迫るための手法を凝らした「課題（追究）をじっくり」、そこから得られた結果の「まとめ」、そして、まとめられたことを今後のどうつなげていくかという「振り返り」という授業の流れが明確になった。「学びのつながりブック」は大変効果的で、思考する手がかりとして効果的であった。また、利用することで国語の学習に必要な重要語句（文法）も覚えられた。さらに前時までの想起が時間短縮されることで、話し合い活動の時間も十分にとれ、広がりや深まりもできた。
課 題	中学校は手作りの学びのつながり表を作っていたが、小学校の「学びのつながりブック」を持ち上げ引き継いでいくこと（必要な確認事項はつながりブックに添付していく）、話し合い活動の中身を充実させるために、日ごろから情報収集をしていく。ある程度知識がなければ、話し合いの深まりはないため、情報収集と、必要な情報の選択方法を学ばせたい。その手法として、新聞の記事（興味深い記事の一つ）をノートに書き取らせて、意見や感想を端的にまとめていくという作業を週一回家庭学習により続けさせたい。社会情報が増えるばかりでなく、自分自身の考えをもつことができるため、小論文の対策にもなると考える。また、小学校低学年は自分の意見を主張するが、相手意識がまだまだなので、話し合いのルールを2年生から少しずつ学ばせてレベルアップを図り、中学校へとつなげていきたい。

# 算 数 科 (小学5年)

1 単元名 「比べ方を考えよう (1)」 (東京書籍5年下)

2 本時のねらい 前時の面積、匹数が異なる場合の混み具合の比べ方をもとに、3つのうさぎ小屋の混み具合の比べ方を考え、「単位量あたりの大きさ」を調べると比べやすいことに気づくことができる。

3 展開

	児 童	教 師												
めあてをはっきり	<p>1 本時の学習課題をつかむ。 「A、C、Dのうさぎ小屋のこんでいる順番を調べよう」</p> <p>2 AとC(直接比較ができない数値のもの)のうさぎ小屋の混み具合を比べる方法を振り返る。</p>	<p>○前時で考えた問題と本時で考える問題を比較し、類似点と相違点を見つけてることによって、今日の課題をつかませる。</p>  <table border="1" data-bbox="1181 582 1404 739"> <thead> <tr> <th></th> <th>面積(m<sup>2</sup>)</th> <th>うさぎの数(匹)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>6</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>9</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>		面積(m <sup>2</sup> )	うさぎの数(匹)	A	6	9	C	5	8	D	9	14
		面積(m <sup>2</sup> )	うさぎの数(匹)											
A	6	9												
C	5	8												
D	9	14												
	<p>めあて 3つのうさぎ小屋について、どの方法を使うと混み具合が一度に調べやすいか考えよう。</p> <p><b>「ここでの学び」のねらいの明確化</b></p>	<p>○前時で学習した内容をまとめた模造紙を使って、学んだことを振り返らせる。</p> <p>①面積の公倍数 ②1m<sup>2</sup>あたりのうさぎの数 ③1匹あたりの面積 の3種類の比べ方について思い起こさせる。</p> 												
課題をこころごとく	<p>3 うさぎ小屋の混み具合の比べ方を考える。 ＜自分の考えをもつ＞</p>  <p>＜全体で交流する＞</p> 	<p><b>「これまでの学び」を活用した課題解決</b></p> <p>○前時に学習した方法を使って、それぞれのうさぎ小屋の混み具合を調べさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをノートに書かせる。どの方法で調べたかも記入させる。</li> <li>全体での交流に向け、数名の児童にホワイトボードに自分の考えた方法を書かせる。</li> <li>早く解決できた児童には、ほかの方法にも取り組ませる。考えが進められない児童には、個別指導を行い、ヒントを与える。</li> </ul> <p>○いろいろな比べ方を発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホワイトボードを掲示し、全体で交流する。</li> <li>友だちの考えに対して、付け足しなどを発表させる。</li> </ul> <p>○計算を通して、単位量あたりの考えのよさに気づかせ、「単位量あたりの大きさ」という考えを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単位量あたりで比べた方が、混んでいる場合の数値が大きくなるので分かりやすいことをおさえる。</li> </ul>												
		<p>4 一度に3つの小屋の混み具合を比べるには、混み具合の比べ方の中で、どの方法が便利なのか考える。</p>	<p>○混み具合を比べるときには、単位量あたりの大きさを用いて比べることをまとめさせる。</p> <p>○ヒントになる言葉を示して、まとめられるようにする。</p> <p><b>自分の言葉による「ここでの学び」のまとめ</b></p>											
まとめ	<p>5 今日の学習で分かったことをまとめる。</p>	<p>○混み具合を比べるときには、単位量あたりの大きさを用いて比べることをまとめさせる。</p> <p>○ヒントになる言葉を示して、まとめられるようにする。</p> <p><b>自分の言葉による「ここでの学び」のまとめ</b></p>												
振り返り	<p>6 練習問題を解く。</p> <p><b>「ここでの学び」の活用</b></p>	<p>○練習問題を一緒に解きながら、間違えやすいところを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つまづきがある場合は、一緒に今日の学習を振り返る。</li> </ul> <p>○学習感想を書かせる。</p> <p>○次時に「人口密度」についての学習をすることを伝える。</p>												

# 数 学 科 (中学2年)




## 1 単元名

一次関数の利用

## 2 本時のねらい

ある図形の辺上を動く点によってできる図形の面積の変化を変域に分けて考え、1次関数の式やグラフを利用して表現し、それぞれの良さを考える。

## 3 展開

	生 徒	教 師
めあてをはっきり	<p>「ここでの学び」のねらいの明確化</p> <p>※本時のめあてをつかむ。 「一次関数を利用して面積の変化を調べよう」</p>	<p>○1cm ごとの <math>\triangle APD</math> の図を確認する。</p> 
課題をじっくり	<p>〈個々の活動〉 ※面積の変化の様子を、各々でノートに表またはグラフで表す。</p>  <p>〈全体での活動〉 ○各々のノートをもとに、面積の変化の様子を、一斉で確認する。</p>	<p>「これまでの学び」を活用した問題解決</p> <p>※<math>\triangle APD</math> の面積の変化の様子を調べる ○三角形の面積の変化の様子が大きく3つに場合わけできることを生徒の発言から導く</p> 
まとめ	<p>○全体で確認した後、本時のまとめをする。 ・動点問題では、<math>x</math> の変域で場合わけをして考える。 ・点 <math>p</math> が <math>AB</math> 上にあるときは面積は増加、<math>BC</math> 上にあるときは面積は変化なし、<math>CD</math> 上にあるときは面積は減少する。</p>	<p>自分の言葉による「ここでの学び」のまとめ</p> <p>※生徒から出て来た言葉をできる限り使ってまとめる。</p> 
振り返り	<p>○「まとめタイム」として自分の言葉で本時のまとめをノートに書く。</p>	<p>「ここでの学び」の自己評価</p> <p>※机間巡視しながら書いてあるまとめについて説明させ、理解を深めさせる。</p>



# 数 学 科 (中学3年)

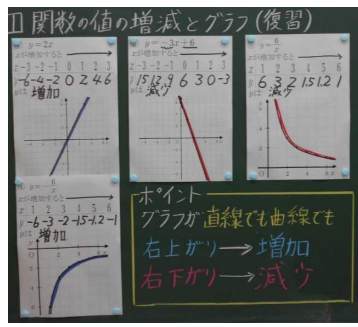

## 1 単元名

関数  $y = ax^2$

## 2 本時のねらい

1次関数や反比例の表の値の変化とグラフの形をもとにして、関数  $y = ax^2$  の値の変化の様子を調べその特徴について考える。

## 3 展開

	生徒	教師
めあてをはっきり	<p>○本時のめあてをつかむ。 「既習の関数の表とグラフをかき、値の増減とグラフの右上がり右下がりの関係を復習する。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「これまでの学び」 を振り返る</p> </div>	<p>※既習の関数の表とグラフを書かせて色分けすることで、直線でも曲線でもグラフの増加・減少と右上がり右下がりが関連することを押さえる</p> 
課題をじっくり	<p>&lt;自分の考えをもつ&gt; ○ <math>y = x^2</math> のグラフから増加する部分と減少する部分を見分ける。 ○表を作り、グラフで予想した増加する範囲と減少する範囲を値で確認する。 &lt;全体交流&gt; ○比例や反比例、1次関数は1つのグラフの中に増加または減少しかなかった。 ○ <math>y = x^2</math> は、減少するところと増加するところがある。 ○他の <math>y = ax^2</math> でも増加と減少があるのかな。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>活用できる「これまでの学び」</p> </div>  <p>○グラフを青色と赤色に塗らせることで一色で塗れないことや途中で色を変えなければならぬことで増加・減少1つの関数の中に存在することに気づかせる。</p> <p>○ <math>y = -x^2</math> を提示し、同様に考えさせていく。</p>
まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>♣ まじめ ♣</p> <p>1次関数、比例、反比例では1つのグラフの中は増加または減少しかなく、2色はなかった。 2次関数では、1つのグラフの中に増加と減少の2色がある。 2次関数を表で確認すると、0を境に増加、減少に分かれていく。</p> </div>	<p>○机間巡視し、ポイントとなる用語や内容を助言する。</p>
振り返り	<p>○ <math>y = 2x^2</math> や <math>y = -3x^2</math> のグラフを見て、増加する範囲や減少する範囲を求める。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「ここでの学び」を自分の言葉でまとめ定着!</p> </div>

# 社会科 (小学5年)

## 1 単元名

わたしたちの生活と工業生産 小単元「自動車をつくる工業」

## 2 本時のねらい

今後、どのような自動車づくりが進められようとしているのかを考え、まとめることができる。

## 3 展開

	児童	教師												
めあてをはっきり	<p>1 これまでの学習をふり返し、本時のめあてをつかむ。</p>  <p>めあて これからの自動車づくりで大切なことを調べ考えよう</p>	<p><b>「ここでの学び」のねらいの明確化</b></p> <p>「最新の自動車には、どのようなものがありましたか。」</p> <p>○前時までの学習内容を想起することができるように、教室側面に「自動車ができるまで」の掲示コーナーを用意する。この掲示物を活用して、自動車生産には実際の生産ラインで働いている人々以外にも、研究開発現場で働いている人々がいることをとらえられるようにする。</p> <p>○次時に「これからの自動車をまとめる活動」があることを伝え、めあてにつなげていく。</p>												
課題をじっくり	<p>2 これからの自動車づくりで大切なことを、資料をもとに考え、グループで意見交流をする。</p> <p>〈自分の考えをもつ〉〈グループで考える〉</p> <table border="1" data-bbox="236 1041 486 1243"> <tr> <td>自分の考え</td> <td>(理由)</td> </tr> <tr> <td>○をつけよう!</td> <td>これからの自動車づくりで大切なことは、</td> </tr> <tr> <td>( ) 環境</td> <td>安全性だと思います。</td> </tr> <tr> <td>(○) 安全</td> <td>なぜかという④、⑤の資料からわかるように、たくさん人の命が交通事故でうばわれているからです。</td> </tr> <tr> <td>( ) 福祉</td> <td></td> </tr> <tr> <td>( ) その他</td> <td></td> </tr> </table> <p>【学びのつながりファイル】</p> 	自分の考え	(理由)	○をつけよう!	これからの自動車づくりで大切なことは、	( ) 環境	安全性だと思います。	(○) 安全	なぜかという④、⑤の資料からわかるように、たくさん人の命が交通事故でうばわれているからです。	( ) 福祉		( ) その他		<p><b>活用できる「これまでの学び」の準備</b></p> <p>「もし自分が自動車づくりをするとしたら、何を一番大切にしますか。またその理由について、資料を使って説明してみましょう。」</p> <p>○グラフや資料の読み取り方のポイントを確認する。</p> <p>○クイズ形式で資料を読み取らせることで、資料をもとにわかる事実について興味をもたせる。</p> <p>○まず個人で考えさせ、自分の意見をもった上で、グループ内で発表させる。</p> <p>○自分の考えをまとめたり、発表したりできるように、ワークシート(学びのつながりファイル)を活用させたり、話型を提示したりする。</p> <p><b>【話型】</b></p> <p>これからの自動車づくりでは～が大切だと思います。(意見) なぜかという、～の資料から～。(事実)</p>
自分の考え	(理由)													
○をつけよう!	これからの自動車づくりで大切なことは、													
( ) 環境	安全性だと思います。													
(○) 安全	なぜかという④、⑤の資料からわかるように、たくさん人の命が交通事故でうばわれているからです。													
( ) 福祉														
( ) その他														
まとめ	<p>3 学級全体で意見交流をする。</p> <p>〈学級全体で交流する〉</p> 	<p>「これからの自動車づくりで大切なことは何ですか。」</p> <p>○各グループで話し合った内容を関連付けし、共通点や相違点を見つけながら、意見を共有する。</p> <p>○キーワードを使い、めあてに対してのまとめをノートに記述し、発表させる。</p> <p>まとめ これからの自動車づくりでは環境にやさしく事故に備えみんなが乗りやすいなど、消費者のニーズに合った車づくりが大切だと思います。</p>												
振り返り	<p>4 本時の学習をふり返る。</p> <p>ふり返し みんなが乗りやすい車と事故に備えた安全な車は似ていると思います。特に高齢者、福祉などが似ていると思いました。最初は上の2つが大切かと思っていましたが、ゆうきくんやけいこの意見を聞いて環境を大切にするのはとても大切なことなんだなと改めて感じました。</p>	<p><b>「ここでの学び」の自己評価</b></p> <p>○板書や学びのつながりファイルを見ながら、授業をふり返らせる。また、次時は、10年先の自動車生産について「提案書」にまとめていくこと伝える。</p> <p><b>【提案書】</b></p> 												

# 社 会 科 (中学2年)




## 1 単元名

明治維新

## 2 本時のねらい

資料をもとに明治維新の諸改革が日本社会や人々の生活にもたらした影響を考え、広い視野から明治維新の諸改革を捉えることができる。

## 3 展開

	生徒	教師
めあてをほしめよう	<p>○本時のめあてをつかむ。 「明治維新の諸改革は、日本の社会や人々の生活にどのような影響を与えたのか。」</p> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>「ここでの学び」のねらいの明確化</b> </div> <p>○ICTを活用し、明治維新の諸改革を想起させる。 ・廃藩置県 ・四民平等 ・地租改正 ・学制 ・徴兵令 ※本時は改革が人々の生活にどのような影響を与えたのかを考え、より広い視野から明治維新を捉えていくことを伝える。</p>
課題をこころ	<p>〈①めあてに対する予想を考える〉 (例)「四民平等」→この改革により、今まで差別されてきた人々の立場が向上し、日本の社会は平等な世の中になった。 〈②自分の考えをもつ〉 ・資料をもとに、明治維新の諸改革によって、人々の生活がどのように変化したのかを調べる。 〈③小グループで意見交流する〉</p>  <p>〈④班で話し合った内容を全体でまとめる。〉</p>	<p>①予想させることで、本時の学習への意欲を高める。 ②教科書、資料集、補助資料を活用させながら、課題を追究させる。 ③まとめの型を提示し、意見交流の結果をまとめやすくなるように支援する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈まとめの型〉 ～(の改革)により、日本(社会)は、(江戸時代と比べ、)～になった。一方で、(人々の生活は)～になった。</p> </div> <p>④ホワイトボードを使いながら説明させ、聞いている側が理解しやすいように配慮する。</p> 
まとめ	<p>○本時のまとめする。 (明治維新の諸改革を評価する) (例)「四民平等」 B 解放令によって江戸時代まであった不平等な身分がなくなったのは、日本が近代化するうえで重要な第一歩であった。しかし、実際には完全に差別がなくなることはなく、苦しんでいた人がいたから。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>自分の言葉による「ここでの学び」のまとめ</b> </div> <p>○本時の学びをもとに明治維新の諸改革について評価させる。 ※評価はABCで評価させ、その理由を自分の言葉でしっかりと書かせる。理由の記述内容から、明治維新の諸改革を広い視野から捉えているかを評価する。</p>
振り返り	<p>○振り返りをする。 ・学習の自己評価と感想を記入する。 (感想例) ・人々の立場にたって考えたことで、明治維新の諸改革を小学校の時よりもさらに深く理解することができた。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>「ここでの学び」の自己評価</b> </div> <p>※自己評価ではこれまでの学び(小学校)と本時の学びの理解度を比較する項目を設け、学びの深まりがあったかを自己評価させる。</p>



# 社 会 科 (中学3年)



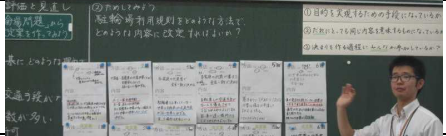
## 1 単元名

決まりを作る目的と方法

## 2 本時のねらい

必要に応じて決まりを見直すことの重要性に気づき、決まりを評価する五つの視点に基づいて多面的・多角的に考察することができる。

## 3 展開

	生徒	教師
<b>めあてをはっきり</b>	<p>○本時のめあてをつかむ。 「現在のマンションの駐輪場問題」からみんなが納得する改正案を作ってみよう。</p> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>「これまでの学び」を振り返る</b> </div> <p>※これまで公民の授業で公正と効率の観点を振り返る。 対立 合意 公正 効率</p> <p>※採決の仕方を振り返る。 全会一致 多数決 少数意見の尊重 個人</p>
<b>課題をじっくり</b>	<p>&lt;自分の考えをもつ&gt; 毎日使う場合。 20 台分が無駄なく使い、同様の理由の世帯数が多い場合。</p> <p>&lt;小グループで考える&gt;</p>  <p>&lt;全体交流&gt;</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>発達段階に応じた話し合い</b> </div> <p>○公正（新しい決まりがマンションの住民の誰にとっても公平であるか）と効率（20 台の駐輪場が無駄なく使えているか）を考え、発表する。（自己決定）</p> <p>○班内で意見交流を実施、考えの違いを尊重する。（自己肯定感・共感的理解）</p> <p>○公正と効率の視点から考えを整理する。</p> <p>○五つの評価から自分達の班の改定案を見直す。 【五つの評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①目的を実現するための適切な手段になっているか？</li> <li>②だれにとっても同じ内容を意味するものになっているか？</li> <li>③決まりを作る過程にみんなが参加しているか？</li> <li>④立場をかえても受け入れられるものになっているか？</li> <li>⑤みんなのお金や物、土地、労力などが無駄なく使われているか？</li> </ol>
<b>まとめ</b>		<p>○五つの評価をもとに改定案を考えさせる。</p>
<b>振り返り</b>	<p>○授業の振り返り</p> <p>(生徒の振り返り例) 物事を話し合うときは、公正と効率を考えるだけでなく、話し合いの仕方（多数決のときは少数意見を尊重し、全会一致のときは代表を選出始話し合う）なども考えないと合意にもっていきづらいと思った。 誰にとっても納得ができる案を考えるのは難しかった。でも、その案がだれにとっても公正になっているか、無駄なく使えているかと考える視点を持つことが大切だと分かった。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>「ここまでの学び」の生かし方の考察</b> </div>

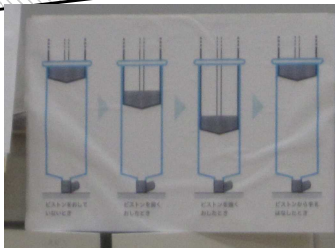
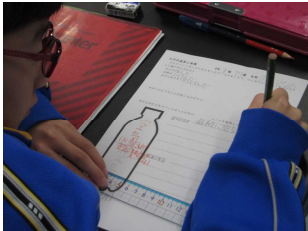

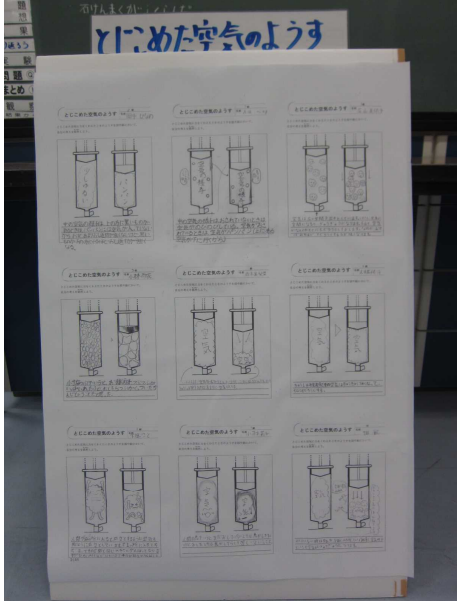




# 理科 (小学5年)

1 単元名 「ものの温度と体積」

2 本時のねらい ペットボトルを湯に入れたときの3つの実験から、空気の体積の変化を温度と関係づけて予想をもち、表現することができる。

3 展開

	児童	教師
<p><b>めあてをはっきり</b></p>	<p>○本時のめあてをつかむ。 ペットボトルをあたためると、栓が飛んだり、ペットボトルが膨らんだり、石けん膜が膨らんだりするのはどうしてだろう。</p>	<p><b>「これまでの学び」を振り返る</b></p>  <p>前時でおこなった導入の実験結果を確認 「とじこめた空気と水」の学びを想起させ、目には見えないが容器の中には空気が存在することに着目させる。</p>
<p><b>問題をじっくり</b></p>	<p>&lt;自分で考える&gt; 温めたペットボトルの中の空気の様子について自分の考えをワークシートに記入する。 「とじこめた空気」で学習した空気の様子を参考にし、考える。 &lt;班で交流&gt; 各自の考えを班の中で発表、共有し良い考えを見つける</p>  	<p><b>活用できる「これまでの学び」の準備</b></p>  <p>○「とじこめた空気」で学習した空気の様子について児童の考えをパネルにして提示。 ○班の中でワークシートを使い意見交換を行う。 ○それぞれの意見について、同じ意見であっても発表させる。</p>
<p><b>まとめ</b></p>	<p>&lt;全体交流&gt; 各班の考えをクラス全体で共有し、よさを見つける。</p>  <p>空気はあたためると体積はふえるようだ。</p>	<p><b>「これからの学び」を意識したまとめ</b></p>  <p>空気は温度によって体積が変わるようだ。あたためると増えるが冷やすとどのように変わるのだろうか。 次回、空気の温度が変わると、空気の体積はどのようにかわるか実験で調べる。</p>

# 理科 (中学1年)





## 1 単元名

物質のすがた (1年)

## 2 本時のねらい

角砂糖が水に溶けるようすをモデルで表す実習をもとに、物質の溶解の現象について自らの考えを導いたりまとめたりして表現できる。

## 3 展開

	生徒	教師
<b>めあてをはっきり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてをつかむ 前時の実験を振り返り、本時のめあてをつかむ。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>「これまでの学び」の振り返り</b> </div> <p>※前時の実験を振り返り、課題につなげさせる。 ※状態変化で粒子のモデルを使って表したことを思い出させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                 めあて 水溶液を、粒子を使ったモデルで表すとどのようになるのだろうか。             </div>
<b>課題をじっくり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○溶解のようすを観察する コーヒーシュガーを双眼実体顕微鏡で観察し、その後、水の入ったビーカーに入れ、溶解の現象を観察する。</li> <li>○個人で考える 溶解のモデルを、溶ける前のモデルをヒントに考える。</li> <li>○班でまとめる 班の中でそれぞれのモデルの説明を聞き、班としての代表モデルをホワイトボードにまとめる。</li> <li>○全体でグルーピングをする 黒板の前に集合させ、似たもの同士をグループ分けする。</li> </ul>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>「これまでの学び」を活用した問題解決</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○状態変化で学習した、粒子モデルを用いて、物質の溶解の現象について詳しく表現できるように導く。</li> <li>※溶ける前の模型を見せ、モデルをかきやすくさせる。</li> </ul> 
<b>まとめをしっかりと</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まとめ ・粒子の大きさや、数は変化しない。 ・色の変化より、粒子は全体に拡散している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グルーピングをしたものを、溶解の現象にあてはめ、現象を説明できるモデルを選び出す。</li> </ul> 
	<b>自分の言葉による「ここでの学び」のまとめ</b>	
<b>振り返り</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しく学んだこと、深まったことを中心に感想を書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感想を書かせ、本時の学習を振り返らせる。 ・数人指名し、感想を発表させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>「ここでの学び」の振り返り</b> </div>

# 理科 (中学2年)





## 1 単元名

行動のしくみ (2年)

## 2 本時のねらい

意識して運動するときは、筋肉・けん・骨格・関節などの運動器官が一体となつてはたらいっていることについて考察し、自らの考えを表現できる。

## 3 展開

	生徒	教師
<b>めあてをはっきり</b>	<p>○本時のめあてをつかむ。 「フクロウが羽ばたくときの写真を見て、本時のめあてをつかむ。」</p>	<p><b>「これまでの学び」の振り返り</b></p> <p>※小学校で学習した「筋肉が縮んで骨を引っ張る」のように、筋肉と骨のつながりを書けるまで、自分の腕で確かめさせる。</p>
	<p>めあて 羽ばたくとき、運動器官はどのようにはたらいっているか。</p>	
<b>課題をじっくり</b>	<p>&lt;自分の考えをもつ&gt; 羽ばたくときの運動器官のはたらきを予想し、発表する &lt;小グループで考える&gt; 腕の骨格模型を使って、運動器官のつながりを具体的に説明する。</p>  <p>&lt;全体交流&gt; 実験した結果から骨格と筋肉のしくみについて話し合ったことを、クラス全体で発表し合い、考えを深める。</p>	<p>※小学校4年で学習した腕の骨格模型を見せながら、腕を曲げ伸ばしする運動について想起させ、詳しく表現できるように導く。</p> <p><b>「これまでの学び」を活用した問題解決</b></p> <p>※腕の模型からそれを中学校で発展的に補うために、「ニワトリの手羽先」を用いて、筋肉・骨格・関節・けんを生体に近い形で学習する。小学校での理解を確かなものにし、運動器官の巧妙なはたらきについて考察を深められるようにする。</p>  
<b>まとめ</b>	<p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・翼を広げるために、筋肉が縮んで、けんが別の骨を引っ張る。</li> <li>・翼を閉じるときは、別の筋肉が縮んで下方向に骨を動かす。</li> <li>・運動器官は、一体となって運動をしている。</li> </ul>	<p><b>自分の言葉による「ここでの学び」のまとめ</b></p> <p>○翼を広げる動き、閉じる動き、運動器官のはたらきの3つに分けて、シートにまとめながら、協働して思考力・判断力を高められるようにする。</p>
<b>振り返りをみっちり</b>	<p>○4択クイズを答え、本時にまとめたことを確かめる。</p> <p><b>「ここでの学び」を生かした類似問題への取組</b></p>	<p>○めあてに関連した振り返りをコンピュータで出題し、一斉に解答する。何度も繰り返し、学習内容をしっかりと覚える。また、宿題プリントでも同様の問題を出題し、再度繰り返し学習内容を定着させる。</p> 



# 英語科 (中学1年)

## 1 題材名

Lesson5 Our New Friend

## 2 本時のねらい

Who am I?クイズや人当てクイズ作成での活動を通して、楽しみながら疑問詞 who を使った会話のやりとりができる。

## 3 展開

	生徒	教師
<b>めあてをはっきり</b>	<p>○本時のめあてをつかむ。 「車に寄りかかっている人の写真を見て、物と人を尋ねるときの違いに気付く。」</p> 	<p><b>「これまでの学び」をもとにした問いの設定</b></p> <p>○小学校では、物を尋ねる時には What is this? It's~. を使っていたことを思い出させる。who を導入する際には、写真の中の人を指しながら Who is ~ ? と質問し、what と who の用法の違いに気付かせる。</p>
<b>課題をじっくり</b>	<p>&lt;交流&gt; ペアになって、クラスの人を指さし、「Who is he? Who is she?」と尋ね、「He (She) is~.」と答える。10人分聞き合ったら座る。</p> 	<p>○クラスの名前を聞いたり答えたりする活動をして、実際のコミュニケーション場面で who を使う練習をする。</p> <p><b>「これまでの学び」を活用した問題解決</b></p> 
<b>まとめ</b>	<p>&lt;自分の考えをもつ&gt; ○ Who am I?クイズの作成をする。 Hint1 I am a woman. Hint2 I am an OJHS teacher. Hint3 I teach art. Who is she?</p>	<p>(課題) 1学期から学んできた be 動詞や一般動詞を用いてヒントとなる文を3つ考える。 ○クイズにしたい対象を決め、そのためにどのようなヒントを作れば良いか考えさせる。(自己決定) ○その後、ペアやグループでクイズを出し合い、他の人の考えの良さに触れさせる。(自己存在感、共感的理解)</p>
<b>振り返り</b>	<p>○クイズをお互いに出し合う。 ○本時のまとめを声に出して読む。</p>	<p>○クイズのヒントを言った後には必ず Who is~?と言わせるよう指導する。 ○板書された本時のポイントをクラスで確認し合いながら共有し、一緒に音読する。</p> <p><b>「ここでの学び」の自己評価</b></p> <p>「~は誰?」と知らない人を尋ねたいときには who を使えば聞けることを改めて振り返らせる。</p>







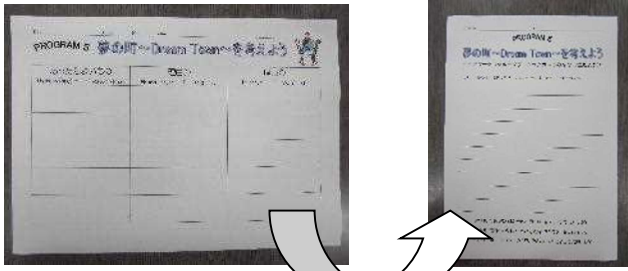
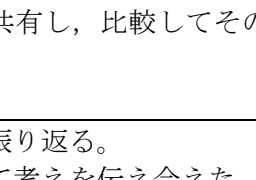

# 英語科 (中学2年)

## 1 題材名 Program 5 Gulliver's Travels

## 2 本時のねらい

「夢の町」にあつたらよいものとその理由を、本単元で学習した基本文を用いて伝え合う活動を通して、基本文を活用する力を身に付けることができる。

## 3 展開

	生徒	教師
めあてをはっきり	<p>○本時のめあてをつかむ。 「夢の町」にあつたらよいものとその理由を、基本文を用いたまとまりのある文で伝え合おう。</p> 	<p><b>「ここでの学び」のねらいの明確化</b></p> <p>※学習した基本文を振り返らせ、それらを用いて「夢の町」にあつたらよいものとその理由を伝えられることを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ There is / are ~ . = 「～がある」</li> <li>・ When ..., ~ . = 「…するとき, ～。」</li> <li>・ If ..., ~ . = 「…ならば, ～。」</li> </ul> <p>※まとまりのある文を書くときの基本の形 (はじめ・中・おわり) を思い出させ、相手に分かりやすく伝えることを意識させる。</p>
課題をじっくり	<p><b>個人</b> 自分の考えを文にする。</p>  <p><b>ペア</b> ペアで協力してまとまりのある文にする。</p>  <p><b>グループ</b> 考えを伝え合い、グループとしての考えをまとめる。</p> 	<p><b>活用できる「これまでの学び」の準備</b></p> <p>※各パートで、基本文を使い、伝えたいことを書きためておく。</p>  <p>※書きためてきたものをまとまりのある文にする。(自己決定)</p>
まとめ	<p><b>クラス</b> 各グループの考えをクラスで共有し、比較してそのよさを見つける。</p> 	<p><b>自分の言葉による「ここでの学び」のまとめ</b></p>  <p>※各グループの考えの共通点や相違点を考えながら交流させる。</p>
振り返り	<p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本文を使って考えを伝え合えた。</li> <li>・ 「夢の町」に自分と同じものがあつたらよいと考えた人がいた。</li> <li>・ みんないろいろな「夢の町」を考えていて、自分と違う考えも知ることができてよかった。</li> </ul>	<p><b>「ここでの学び」の自己評価</b></p> <p>※基本文の便利さに気づかせる。 ※互いの考えを伝え合える喜びを感じさせ、次の活動への意欲を高めさせる。</p>

# 英語科 (中学2年)





## 1 題材名

テレサ先生に3年生で学んだ文法を使った自己紹介をしよう。

## 2 本時のねらい

call + 人 + 名前や make + 人 + 形容詞の意味や用法を用いて、生徒同士が助言し合いながら会話練習をすることで、make や call を使って自己紹介を行うことができる。

## 3 展開

	生徒	教師
めあてをほっきり	<p>○本時のめあてをつかむ。 「call や make を使って自己紹介をしよう」</p> 	<p><b>「これまでの学び」を振り返る</b></p> <p>※これまでの授業で学習した内容を振り返らせる。 call + 人 + 名前 ※小学校から今まで行ってきた自己紹介を振り返らせる。 どんな内容で どんな文法を使って</p>
課題をじっくり	<p>&lt;自分の考えをもつ&gt; ○パターンプラクティスを行い、基本文を理解する。 ○call や make を使って自己紹介の文を5文程度考える。 &lt;グループで発表する&gt; ○互いの発表を聞き合う。</p> 	<p><b>「これまでの学び」を活用した問題解決</b></p> <p>○ 今まで学習した文法を使いつつ、call や make を使った自己紹介を考えるようにする。(自己決定)</p>  <p>○グループの発表を聞き、互いのよかったところや助言を伝え合わせる。(自己肯定感・共感的理解)</p>
まとめをしっかりと	<p>○代表の生徒に発表して全体で共有をする。</p> 	<p>○発表した生徒には、自信を持つことができるように、よかったところを褒める。 ○代表の生徒が達成感をもつことができるように、ALTからも感想を伝える。</p>
振り返りをみっちり	<p>○今まで行ってきた自己紹介と、今回の自己紹介を比べるために自己評価を行う。</p>	<p><b>「ここでの学び」による自己の変容</b></p> <p>○小学校から行った自己紹介と、今回行った自己紹介を比較して、使える表現が増えた事を実感させる。</p>

# 図画工作科 (小学1年)

## 1 題材名

せんせいのね

## 2 本時のねらい

絵の具同士の混色ができることを知り、絵の具のよさやたのしさを感ずることができる。

## 3 展開

	生徒	教師
めあてをはっきり	<p>○本時のめあてをつかむ。 「えのぐとえのぐをまぜるとどうかじっけんでたしかめよう」</p>	<p><b>「これまでの学び」を振り返る</b></p> <p>※前回の実験結果を思い出す 絵の具は水をふやすと明るくなる クレヨンをはじく</p>
課題をじっくり	<p>&lt;自分の好きな色を2色選ぶ&gt; (自己決定)</p> <p>&lt;小グループ&gt; ひとりずつ実験(ペットボトルの中に絵の具を入れ混ぜる)を行い、色の変化を見合う</p>  <p>&lt;全体交流&gt;</p>	<p><b>活用できる「これまでの学び」の準備</b></p> <p>○色カードで色の並びを共有する。</p> <p>○話形「○と○を混ぜたらこの色になりました」</p> <p>○友達の色の変化を認め合う。(自己肯定感・共感的理解)</p> 
まとめをしっかりと	<p><b>「これからの学び」を意識したまとめ</b></p> <p>○まとめ えのぐとえのぐがであうとちがういろになる</p>	<p>○似た色をならべると円になる。近い色はきれい。はなれた色はにごる。</p> 
振り返りをみっちり	<p>○できた色水を教室におき、並べ替えて楽しむ。</p> 	<p>○つくった色が何に使えるか考えたり、色と色の組み合わせを試したりする。</p> <p>○光に透かすと美しいことを味わう。</p> <p><b>「ここでの学び」の生かし方</b></p>



# 美術科 (中学1年)




## 1 題材名

私が見つけた物語

## 2 本時のねらい

作品の表現から物語を想像する場面において、読みの鍵と造形要素一覧を利用して根拠を考えることにより、作者の意図と表現の工夫を結び付けて感じ取ることができる。

## 3 展開

	生徒	教師																			
めあてをはっきり	<p>○本時のめあてをつかむ。 「絵の表現から物語を想像する」</p> 	<p><b>「これまでの学び」を振り返る</b></p> <p>※これまで国語の授業で物語を読み解く観点を想起 主人公 言動 背景 情景描写 ※造形要素一覧を見ながらこれまでの鑑賞の視点を想起 色、形、表情、ポーズ、視線、持ち物、表現方法</p>																			
	<p>&lt;自分の考えをもつ&gt;</p> <p>・距離をいれていることでさみしさがある。 ・明るい色をたくさん使っている。ほくけきがある。 ・不思議そうな顔をしている。</p>	<p><b>活用できる「これまでの学び」の準備</b></p> <table border="1"> <caption>鑑賞の手引き 『造形要素一覧表』</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>対象作品</th> <th>鑑賞の手引き</th> <th>鑑賞の視点(造形要素)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2年</td> <td></td> <td>きれい/色だな おもしろい/形だな さわるとこんな感じ へみがいだな</td> <td>色や形</td> </tr> <tr> <td>3・4年</td> <td>自分たちの作品 身近な美術作品 暮らしの中の作品</td> <td>ここがいいね、ここがすごい。 色や形の組み合わせがきれいだな 光と影がきれいだな 作者の思いはこんなかな</td> <td>色や形 光と影 よさや面白さ 表し方 材料</td> </tr> <tr> <td>5・6年</td> <td></td> <td>「ここがいい、その理由は○○」 自分はどう思う? 友達はどう思うんだ? この作品はこんな感じがする この表し方ももしろいな</td> <td>色の感じ 形の感じ 材質の違い 動き・奥行き 表現の仕方 表現の意図</td> </tr> <tr> <td>中1年</td> <td>生徒作品 代表的な美術作品 自然や身の回りの造形 地域にある美術文化財</td> <td>鑑賞のすすめ方 ①作品の第一印象(感覚的に) ②よく見る(造形・視点) ③想像する(意図と表現の工夫) ④言葉でまとめる  米ちがいを楽しむ</td> <td>色彩の感じ 組み合わせの感じ 光の感じ 明暗のつけ方 形 描かれたもの・表情・動作・手の動き 構図 位置と大きさ・視線 奥行き 空気遠近法 透視図法 視点 どこから見たか 構成の秩序 (フランス・ジノ・オリー・レピテーショなど) 量感 描画材料と表現方法 筆のタッチ・キダ/テクニクなど</td> </tr> </tbody> </table>	学年	対象作品	鑑賞の手引き	鑑賞の視点(造形要素)	1・2年		きれい/色だな おもしろい/形だな さわるとこんな感じ へみがいだな	色や形	3・4年	自分たちの作品 身近な美術作品 暮らしの中の作品	ここがいいね、ここがすごい。 色や形の組み合わせがきれいだな 光と影がきれいだな 作者の思いはこんなかな	色や形 光と影 よさや面白さ 表し方 材料	5・6年		「ここがいい、その理由は○○」 自分はどう思う? 友達はどう思うんだ? この作品はこんな感じがする この表し方ももしろいな	色の感じ 形の感じ 材質の違い 動き・奥行き 表現の仕方 表現の意図	中1年	生徒作品 代表的な美術作品 自然や身の回りの造形 地域にある美術文化財	鑑賞のすすめ方 ①作品の第一印象(感覚的に) ②よく見る(造形・視点) ③想像する(意図と表現の工夫) ④言葉でまとめる  米ちがいを楽しむ
学年	対象作品	鑑賞の手引き	鑑賞の視点(造形要素)																		
1・2年		きれい/色だな おもしろい/形だな さわるとこんな感じ へみがいだな	色や形																		
3・4年	自分たちの作品 身近な美術作品 暮らしの中の作品	ここがいいね、ここがすごい。 色や形の組み合わせがきれいだな 光と影がきれいだな 作者の思いはこんなかな	色や形 光と影 よさや面白さ 表し方 材料																		
5・6年		「ここがいい、その理由は○○」 自分はどう思う? 友達はどう思うんだ? この作品はこんな感じがする この表し方ももしろいな	色の感じ 形の感じ 材質の違い 動き・奥行き 表現の仕方 表現の意図																		
中1年	生徒作品 代表的な美術作品 自然や身の回りの造形 地域にある美術文化財	鑑賞のすすめ方 ①作品の第一印象(感覚的に) ②よく見る(造形・視点) ③想像する(意図と表現の工夫) ④言葉でまとめる  米ちがいを楽しむ	色彩の感じ 組み合わせの感じ 光の感じ 明暗のつけ方 形 描かれたもの・表情・動作・手の動き 構図 位置と大きさ・視線 奥行き 空気遠近法 透視図法 視点 どこから見たか 構成の秩序 (フランス・ジノ・オリー・レピテーショなど) 量感 描画材料と表現方法 筆のタッチ・キダ/テクニクなど																		
課題をじっくり	<p>&lt;小グループで考える&gt;</p>  <p>&lt;全体交流&gt;</p> 	<p>○「物語」何が起きているのか 「根拠」どこからそう思ったのか(自己決定) ○考えの違いを尊重する(自己肯定感・共感的理解) ○表現と物語のつながりを楽しむ。 聞きながら感じたこと思い付いたことを交流する</p>																			
まとめ	<p>○まとめ (物語) 意図=表現の工夫</p>	<p>○色彩・しぐさ等・構図の視点から考えを整理する。</p> <p><b>「ここでの学び」による自己の変容</b></p>																			
振り返り	<p>○作者の思いと表現の結びつきをまとめる</p> <p>ノーマンさんは肌で分かる人種の違いや表情距離感などが人種問題についてかいていると思う。しかし人種の違いをかきだけでなく野球やアイスという共通点から人種が違って仲良くなれるということを伝えている。</p>																				



# 保健体育科 (中学2年)

## 1 題材名

「犯罪被害の防止」

## 2 本時のねらい

犯罪被害による傷害を防止するために、人的要因や環境要因に関わる危険を学習したことを活用して考え、予測し、それぞれの要因に対し適切な対策が取れるようにする。

## 3 展開

	生徒	教師
めあてをはっきり	<p>○本時のめあてをつかむ。 「既習学習をもとに、適切な対策を考える。」</p> 	<p><b>「これまでの学び」を振り返る</b></p> <p>※本時で必要な既習学習を確認する時間を設ける。 ・人的要因、環境要因 ※前時の学習活動を想起させる。</p>
課題をじっくり	<p>【自分の考えを持つ】</p>  <p>【小グループで考える】</p>  <p>【全体交流】</p> 	<p><b>発達段階の応じた話し合い活動</b></p> <p>○時間を設定し、次の話し合い活動を充実させるため、個人の考える時間を確保する。(自己決定)</p> <p>○小グループで話し合う中で、違う意見を加筆させ、考えの違いを尊重する。(自己肯定感・共感的理解)</p> <p>○他の班で出た意見を聞きながら、新たな考えに気づいたり、さらに考えた事を交流したりする。</p>
まとめ	<p>○まとめ 教科書を参考に板書を写す。</p>	<p>○要因ごとに適切な対応を具体的に示し、身近で、すぐにできることに気づかせる。</p>
振り返り	<p>○本時の振り返りを感想としてまとめる。</p> 	<p>○授業感想をまとめさせ、発表させる。</p>

# 家庭科 (中学2年)






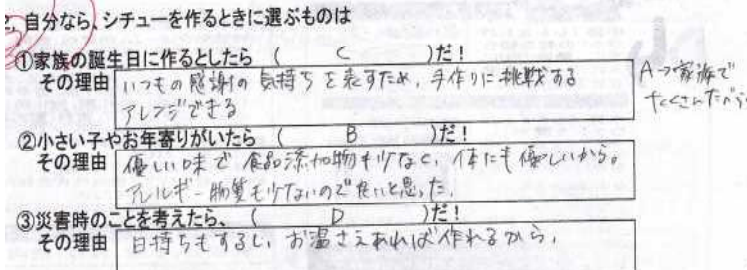
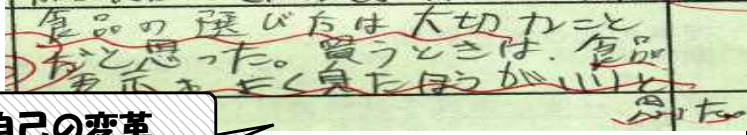
## 1 題材名

賢く食品選択をしよう

## 2 本時のねらい

加工食品を選ぶときに、食品表示を見て、様々な場面の用途に応じて選択をすることができる。

## 3 展開

	生徒	教師
めあてをはっきり	<p>○本時のめあてをつかむ。 「シチューのルーを選ぶときに、どんなことに注意したら良いのだろうか」</p> 	<p><b>「これまでの学び」を振り返る</b></p> <p>※食品を選択するときの基準は何か、これまでの学習を振り返り、「鮮度」「価格」「品質」「見た目」(大きさ、形、色)等を想起させる。</p>
	<p>活用できる「これまでの学び」の準備</p>	<p>活用できる「これまでの学び」の準備</p>
課題をじっくり	<p>&lt;自分の考えをもつ&gt;</p>  <p>&lt;小グループで考える&gt;</p>  <p>&lt;全体交流&gt;</p> 	<p>※小学校で加工食品を選ぶときには、期限、原材料等の表示を見ることを学んだことを振り返る。</p>  <p>&lt;小学校の教科書を見る生徒&gt; &lt;教科書の拡大を提示&gt;</p> <p><b>「これまでの学び」を活用した問題解決</b></p> <p>○それぞれのルーを選んだときの利点と欠点を考え、記入させる(自己決定)。 ○グループで話し合い、グループごとに発表させ、他の人の考え方に触れさせる。(自己肯定感・共感的理解)</p>
	<p><b>「これからの学び」を意識したまとめ</b></p>	<p><b>「これからの学び」を意識したまとめ</b></p> <p>○家族の誕生日に作る、小さい子やお年寄りがいたら、災害時に作るとしたらという視点から考えを整理する。</p> 
まとめ	<p>○まとめ 用途に応じて食品を選ぶこと、選ぶ時に食品表示からの情報を参考にすることをまとめる。</p>	
振り返り	<p>○生活に生かせることを記述させる。</p> 	<p><b>「ここでの学び」による自己の変革</b></p>



# 技術科 (中学2年)

## 1 題材名

電気照明について考えよう

## 2 本時のねらい

はんだづけの練習をし、技能を相互評価する活動を通して、正しく安全にはんだづけするポイントを理解する。

## 3 展開

	生徒	教師																
めあてをはっきり	<p>○本時のめあてをつかむ。 「はんだづけのポイントを確認しよう」</p> 	<p><b>「これまでの学び」を振り返る</b></p> <p>※小学校の授業で使用した接合する方法と道具を提示し、はんだづけは電気が流せることに触れる。</p>																
課題をじっくり	<p>&lt;ポイントを観察する&gt;</p>  <p>&lt;技能の相互評価&gt;</p> 	<p>○着目する視点を与えてはんだづけのポイントを観察させる。</p> <p>○良い例、悪い例を示し目標を意識させる。</p> <p>○ペアで考えたポイントではんだづけがうまくいったかを考えさせる。</p> <p>○作業が困難な場合は支えるなど協力させる。</p> <p>○失敗した時の理由と改善点を考えさせる。</p>																
まとめをしっかりと	<p>○生徒の言葉でポイントをまとめる。</p> 	<p><b>題材の系統</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>学習内容(教科)</th> <th>身につかせたい資質・能力</th> <th>大切にしたい発想/指導のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1学年及び2学年</td> <td>○接着剤の使い方(図工)</td> <td>○つけるもの貼るものの形に合わせて接着剤の使い方を工夫できる。</td> <td>○小さいものをつけるときはつけたいところにも接着剤をつけたほうがよい。</td> </tr> <tr> <td>第3学年及び4学年</td> <td>○げんのうと釘の使い方(図工) ○電気の通り道(理科) ○電気の動き(理科)</td> <td>○げんのうで安全に釘を打つことができる。 ○豆電球と乾電池の基本的な回路を作ることができる。 ○電気の向きや大きさでモーターなどの働きが変わること。</td> <td>○釘が曲がったらどんなものに見えてくるかな。 ○乾電池の電気を利用して豆電球がついた。わっかにして手で押さえると電気が流れるのだな。 ○乾電池の向きを変えたらモーターが回る向きも変わった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○接着剤の利用法(図工) ○電流の動き(理科) ○電気の活用(理科)</td> <td>○接着する物に合わせて接着剤を選択できる。 ○電流と磁石の関係や電流の極性の理解。 ○電気は作り出したり、蓄えたりできること。</td> <td>○グルーガンは気をつけて使えば何にでもくっつくな。 ○導線は丁寧にまいたり、ねじったりして回路とつなげないとけないな。 ○電気をたくさん作るにはどうしたらよいだろう。</td> </tr> </tbody> </table>	学年	学習内容(教科)	身につかせたい資質・能力	大切にしたい発想/指導のポイント	第1学年及び2学年	○接着剤の使い方(図工)	○つけるもの貼るものの形に合わせて接着剤の使い方を工夫できる。	○小さいものをつけるときはつけたいところにも接着剤をつけたほうがよい。	第3学年及び4学年	○げんのうと釘の使い方(図工) ○電気の通り道(理科) ○電気の動き(理科)	○げんのうで安全に釘を打つことができる。 ○豆電球と乾電池の基本的な回路を作ることができる。 ○電気の向きや大きさでモーターなどの働きが変わること。	○釘が曲がったらどんなものに見えてくるかな。 ○乾電池の電気を利用して豆電球がついた。わっかにして手で押さえると電気が流れるのだな。 ○乾電池の向きを変えたらモーターが回る向きも変わった。		○接着剤の利用法(図工) ○電流の動き(理科) ○電気の活用(理科)	○接着する物に合わせて接着剤を選択できる。 ○電流と磁石の関係や電流の極性の理解。 ○電気は作り出したり、蓄えたりできること。	○グルーガンは気をつけて使えば何にでもくっつくな。 ○導線は丁寧にまいたり、ねじったりして回路とつなげないとけないな。 ○電気をたくさん作るにはどうしたらよいだろう。
学年	学習内容(教科)	身につかせたい資質・能力	大切にしたい発想/指導のポイント															
第1学年及び2学年	○接着剤の使い方(図工)	○つけるもの貼るものの形に合わせて接着剤の使い方を工夫できる。	○小さいものをつけるときはつけたいところにも接着剤をつけたほうがよい。															
第3学年及び4学年	○げんのうと釘の使い方(図工) ○電気の通り道(理科) ○電気の動き(理科)	○げんのうで安全に釘を打つことができる。 ○豆電球と乾電池の基本的な回路を作ることができる。 ○電気の向きや大きさでモーターなどの働きが変わること。	○釘が曲がったらどんなものに見えてくるかな。 ○乾電池の電気を利用して豆電球がついた。わっかにして手で押さえると電気が流れるのだな。 ○乾電池の向きを変えたらモーターが回る向きも変わった。															
	○接着剤の利用法(図工) ○電流の動き(理科) ○電気の活用(理科)	○接着する物に合わせて接着剤を選択できる。 ○電流と磁石の関係や電流の極性の理解。 ○電気は作り出したり、蓄えたりできること。	○グルーガンは気をつけて使えば何にでもくっつくな。 ○導線は丁寧にまいたり、ねじったりして回路とつなげないとけないな。 ○電気をたくさん作るにはどうしたらよいだろう。															
振り返りをみっちり	<p>○振り返りとしてもう一度はんだづけをして実技を振り返る。</p>	<p><b>自分の言葉による「ここまでの学び」のまとめ</b></p>																

# 道徳 (中学3年)




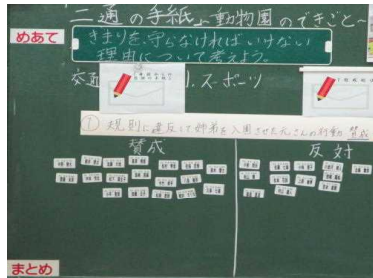

## 1 主題名

きまりを守る〔遵法精神、公德心〕

## 2 本時のねらい

主人公（元さん）の判断と行動を通して、道徳的な葛藤について考えることで、法や規則の意義を理解し、秩序と規律ある社会を実現しようとする態度を育てる。

## 3 展開

	生徒	教師
<b>めあてをはっきり</b>	<p>○本時のめあてをつかむ。 「なぜ、きまりを守らなければいけないのか？元さんの心情から考えよう」</p> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>「これまでの学び」を振り返る</b> </div> <p>※これまで道徳の授業での学び振り返る。 〔遵法精神、公德心〕 についての1、2年の教材を見せる。 公民や学活などについても触れる。</p>
<b>課題をじっくり</b>	<p>&lt;自分の考えをもつ&gt; 元さん（主人公）の行動に賛成？反対？</p> <p>&lt;小グループで考える&gt;</p>  <p>&lt;全体交流&gt;</p> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>発達段階に応じた話し合い活動</b> </div> <p>○元さん（主人公）の行動に賛成・反対の自分の考えを持つ。（自己決定） ○ネームプレートを貼る。（自己肯定感）</p>  <p>○班内で意見交流を実施、考えの違いを尊重する（自己肯定感・共感的理解）</p>
<b>まとめ</b>		<p>○班でまとめた意見の発表</p>
<b>振り返り</b>	<p>○授業の振り返り 感想の記入</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>「ここでの学び」による自己の変容</b> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>きまりやルールは自分や周りの人たちを守るためにある。また、自分の役割を果たし、きまりを守ることで社会は成り立っている。</b></p> </div>







# 学級活動 (中学3年)

1 題材名 「校内陸上記録会を成功させよう」

2 本時のねらい

第2回の第3回のアンケートの集計結果の比較から、これまでの学級の成長（よさや問題点）を確かめるとともに、問題を解消するための具体策を考え、さまざまな意見に対して議論を行い、協働的に問題解決することができる。

3 展開

	生徒	教師																										
めあて	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任の話を聞く。</li> <li>本時の議題を知る。</li> </ul> 	<p><b>「これまでの活動」を振り返り</b></p> <p>※最初に、生徒自治の観点から、自分たちで決めたルールを自分たちで守り、クラスをよくしていくことの重要性を話す。</p>																										
課題をじっくり	<p><b>&lt;自分の考えを持つ&gt;</b></p> <p>○レーダーチャートを使い、第2回と第3回の結果を比較しながら、気付いたことをワークシートに記入する。</p> <p><b>&lt;グループで考える&gt;</b></p> <p>○班に割り当てられた項目について分析し、学級全体に報告する。</p> <p><b>&lt;クラスで考える&gt;</b></p> <p>○班からの報告を聞いて、「陸上記録会当日の行動目標」というテーマで、クラスとして取り組む項目を決める。</p> 	<p><b>発達段階に応じた話し合い活動</b></p> <p>高学年 5・6年生</p> <p>信頼しあえ合って楽しく豊かな学級や学校生活をつくる ・教師の助言を受けながら、児童自身が活動計画を作成し、進行等の役割を輪番で受け持ち、話し合いの方法などを工夫して運営することができるようにする。 ・学級のみならず学校生活にまで目を向け、自分の言葉で建設的な意見を述べ合えるようにし、多様な意見のよさを生かして、楽しい学級や学校の生活をつくるためのよりよい集団決定ができるようにする。</p> <p>(1)「学級や学校の生活づくり」 ・学級や学校の生活の充実と向上させる ☆集団としての意見をまとめたり、生徒たちで適切な決まりをつくらったりする話し合い活動 ・指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようする。 1 一人一人の生徒が、目的意識や問題意識を明確にして話し合い活動に取り組むことができるように、事前の活動や指導を丁寧に進めるとともに、決まったことの具体化を図る。 2 ※小学校の学級活動や児童会活動で身に付けた話し合い活動に関する議題の選択、話し合いの方法、役割分担などの経験を生かす。</p>																										
まとめ	<p>○全体で決まった項目について、具体的な取組プランを班で考え発表する。</p> <p>○各班から提案されたプランの中から、実際に取り組むものを全体で決める。</p>	<p>○自分たちでクラスをよくしていくという意識を持たせるために、取り組む項目については、全体の場で決めさせる。</p> 																										
振り返りみっちり	<p>○担任の話を聞く。</p> <p>○個人で今日の活動の振り返りを行う。</p> 	<p><b>「ここでの学び」の自己評価</b></p> <p>◎…よくできた    ○…ふつう    △…次はがんばりたい</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>振り返りの視点</th> <th>自己評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">は め め</td> <td>自分の立場（司会者、書記、提案者、発言者）を確認できた。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>活動テーマや提案理由が理解できた。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>既に決定されている内容と、話し合う内容が整理できた。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">は め め</td> <td>他の人の意見や考えに耳を傾け、理解しようとした。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>自分から進んで発言することができた。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>拳手をしたり、拍手をしたりして、自分の意思を表せた。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>決定された事柄と、今後の取り組むべき内容が理解できた。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>☆友だちについて（頑張っていた人など）</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>☆今後に向けて（自分について）</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table>		振り返りの視点	自己評価	は め め	自分の立場（司会者、書記、提案者、発言者）を確認できた。	◎	活動テーマや提案理由が理解できた。	◎	既に決定されている内容と、話し合う内容が整理できた。	◎	は め め	他の人の意見や考えに耳を傾け、理解しようとした。	◎	自分から進んで発言することができた。	◎	拳手をしたり、拍手をしたりして、自分の意思を表せた。	◎		決定された事柄と、今後の取り組むべき内容が理解できた。	◎		☆友だちについて（頑張っていた人など）	◎		☆今後に向けて（自分について）	◎
	振り返りの視点	自己評価																										
は め め	自分の立場（司会者、書記、提案者、発言者）を確認できた。	◎																										
	活動テーマや提案理由が理解できた。	◎																										
	既に決定されている内容と、話し合う内容が整理できた。	◎																										
は め め	他の人の意見や考えに耳を傾け、理解しようとした。	◎																										
	自分から進んで発言することができた。	◎																										
	拳手をしたり、拍手をしたりして、自分の意思を表せた。	◎																										
	決定された事柄と、今後の取り組むべき内容が理解できた。	◎																										
	☆友だちについて（頑張っていた人など）	◎																										
	☆今後に向けて（自分について）	◎																										

# 自立活動アイデア



## 1 題材名

こんなときどうする？

## 2 本時のねらい

普段の生活で本生徒が「困った」「まちがえた」「どうしよう」と思うであろうことを想定し、ロールプレイ後にあまり話す機会の少ない先生と会話をするすることで、固まらずに話しをすることができる。

## 3 展開

	生徒	教師
めあてをはっきり	<p>○本時のめあてをつかむ。 「どんな先生との会話でも、固まらずに話しができる」</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>「これまでの学び」を振り返る</b> </div> <p>※これまでに習った、相手に応じた話し方を想起 相手の立場 敬語 表情 身振り</p>
課題をじっくり	<p>&lt;場面ごとにロールプレイを行う&gt; これまでの言動をもとに、これからの言動を考える。</p> <p>○ありがとう  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これまで</div> ありがとうございます…  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これから</div> <u>〇〇してくれて</u>ありがとうございます。</p> <p>&lt;あまり話さない男の先生&gt; ○ごめんなさい  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これまで</div> … (どうしよう)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これから</div> <u>〇〇してごめんなさい。</u>  <u>次からは〇〇にします。</u></p> <p>○質問  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これまで</div> え…? (よくわからない)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これから</div> <u>もう一度ゆっくりお願いします。</u></p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>活用できる「これまでの学び」の準備</b> </div> <p>○場面絵で今まで自分が困難だと思ったことを振り返る ○場や状況に応じた話し方、言葉遣い、敬語についての確認 (知識)</p>  <p>緊張して黙ってしまうであろう場面を、落ち着いた状態で集中して出来事について考えられるようにする。</p> 
まとめ	<p>○まとめ 黙るのではなく、自分の気持ちを言葉にしよう。わからないことを言葉にする</p>	<p>○一言加えて、ありがとうとごめんなさいが言える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>「ここでの学び」による自己の変容</b> </div>
振り返り	<p>○実際にあまり関わりのない先生と会話をする。</p>	<p>ロールプレイでの練習を活かし、実践して、普段の生活に活かせるようにする。</p>

# 自立活動 アイディア


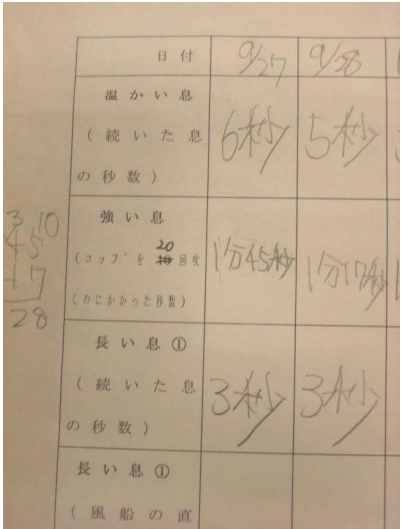
## 1 題材名

明瞭な発音で話そう

## 2 本時のねらい

IC レコーダーに自分の話した言葉を録音し、正しい音であるかどうかを聞き分けながら自分の発音を修正していく活動を通して、「明瞭な発音で話す力」を伸ばす。

## 3 展開

	生徒	教師
めあてをはっきり	<p>○本時のめあてをつかむ。 「5枚の四字熟語カルタをつかえずに読むことができる」 (正しい音であるかどうかを聞き分けながら、「明瞭な発音で話す力」を伸ばす。)</p>	<p><b>「ここでの学び」のねらいを明確化する</b></p> <p>○「明瞭な発音」とは、どんな発音であるか確認させる ○「明瞭な発音で話すこと」が「これからの学習や生活にどう生きていくかの意義を考えさせる。</p>
課題をじっくり	 <p>&lt;呼吸の練習&gt; ・腹式呼吸で、強くて長い呼吸をします練習をする。 &lt;ハ音の練習&gt; ・ハ音とア音の聞き分け練習をする &lt;四字熟語カルタの音読&gt; ・IC レコーダーに言葉を録音し、自分の発音を修正していく。</p>	<p><b>活用できる「これまでの学び」の準備</b></p> <p>※これまでの学びをまとめたカード ○前時までの記録を上回ることを目標に、呼吸の練習をさせる。</p> <p>○「ハナ」と「アナ」のようにハ音とア音を入れ替えることのできる2つの言葉を言い分けたり聞き分けたりさせる。</p> <p>○腹式呼吸ができているかどうかを確認しながら練習させる</p> 
まとめ	<p>○明瞭な発音で話すためのポイントをまとめる。</p>	<p>○本時の活動を思い起こさせ、どんなポイントがあったかを自分の言葉で言わせる。</p> <p><b>「ここでの学び」による自己の変容</b></p>
振り返り	<p>○本児の活動を振り返り、「どんな進歩が見られたか」また、「5枚の四字熟語カルタをつかえずに読めるようになったか」を確認する。</p>	<p>○「記録カード」を見て、本時の活動を振り返らせる。 ○「『できるようになったこと』を助手さんに伝える」という設定で、明瞭な発音に注意しながら話させる。</p>